科学研究費助成事業（基盤研究（Ｓ））中間評価

課題番号	18H05217	研究期間	平成３０(2018)年度 ～令和４(2022)年度
研究課題名	対話型中央銀行制度の設計	研究代表者 （所属・職） （令和２年３月現在）	渡辺　努 （東京大学・大学院経済学研究科・教授）

【令和２(2020)年度　中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A－	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、 一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（意見等）

本研究は、中央銀行からの情報発信が、民間経済主体の関心や信認を、醸成・獲得し得るのか否かを、理論的・実証的に検討するものである。

これまでに幾つかの重要な研究成果が生み出されており、これら成果をもとに過去２年間で３５点の著書や論文が著され、うち一部については国際的な学術誌において公表されるなど、本研究は順調に進展しているものと評価できる。なかでも、日本銀行の情報発信が、民間の物価予想に及ぼす効果に関する研究成果は、学術上のみならず、政策実務上も大いに有益である。また、本研究からは、いわゆる「非構造化データ」の分析手法の開発と経済研究への応用という成果も期待できる。今後の更なる進展を期待する。